



E-mail:honbu@otedama.jp

●お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

●たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号

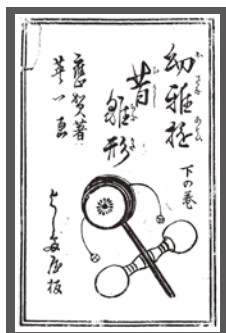
TEL : 0897-32-0302

FAX : 0897-32-0311

浮世絵師が描いた子どもの遊び「お手玉」(上)

170年前に出版された「幼稚遊戯昔雛形」

版画に残されていたお手玉遊びの絵



↑お手玉遊びをしている姿
←幼稚遊戯昔雛形の本の表紙



↑まりつきをしている姿



↑竹とんぼで遊んでいる姿

「近ごろは子どもたちが、子どもらしく遊び戯れる姿を見られなくなった。それどころか品のない流行歌などを口ずさんだりして、また親もそれをよしとしているから…。」

と、最近でも耳にしそうな嘆きの言葉から、古書「幼稚遊戯昔雛形」(おさなあそびむかしひながた)は始まっています。天保15(1844)年に、作者・万亭応賀(まんていおうが)によって著されたものです。絵は、浮世絵師の静斎栄一(せいさいえいいち)が描いています。

著者の万亭応賀は、「子どもたちの健やかな成長は、昔ながらの素朴な遊びによって育てられる」と考えて、「こういう遊びをしなさい」と、自分が子どもころに行っていた遊びを、詳しく解説しています。

この本では、お手玉、竹馬、こま、手まりつき、とんぼ竹(竹とんぼ)、竹がえし、きしゃごはじき(おはじき)など75種の遊びが登場します。

「お手玉」の項には、次のような解説が添えられています。

「これはちいさきふくろへ あずきつぶをいれて 七つこしらへ それをひとつうえになげ したのをとりて うえからおちてくる玉を うけとるあそびなり うえになげし玉を とりそこねると やめて つぎにわたすなり」

と、寄せ玉遊びの遊び方を紹介しています。

いま、日本のお手玉の会では、伝承遊びを子どもたちに伝える活動に取り組んでいます。同じような考えや活動が、170年前にもあったわけで、伝承文化の継承の大切さを改めて感じることができます。

「幼稚遊戯昔雛形」は、出版当初はたくさん世に出たと思われそうですが、現在では西尾市立岩瀬文庫の1点だけになっているそうです。

この「幼稚遊戯昔雛形」のコピーは、元西尾市立図書館長の山本紀英子さん、西尾市の杉村千代子さんにご提供いただきました。また、「お手玉」の項の翻訳は、日本のお手玉の会理事の中山順子さん、とっとりのお手玉の会会長の福田環さんのご協力をいただきました。